

いきいき東海

(全国いきいき公衆衛生の会東海支部)

サテライト集会

会場 1階小会議室

時間 15:30～17:20

テーマ：「住民の心に響く保健活動を目指して」

世話人 加藤 恵子 (あいち小児保健医療総合センター)
犬塚 君雄 (岡崎市保健所)

15:30 開会あいさつ・サマーセミナーin 沖縄の報告 (犬塚君雄)

15:40 第I部 学ぼう!! 「多様な住民を理解した保健活動の大切さ～

AIDS 予防を例にして～」

講師：名古屋市立大学大学院看護学研究科・感染症学 市川誠一教授

16:20 第II部 語ろう!! 「住民の心に響く保健活動を目指して」

司会：東海市企画部企画政策課 統括主幹 後藤文枝

キーワード：多様性、関係性、コミュニティ

17:00 第III部 見つけよう!! 「アセットモデルによる健康増進計画」

講師：浜松医科大学健康社会医学講座 尾島俊之教授

17:20 閉会

18:30 情報交換会 (岐阜駅周辺)

テーマ：「住民の心に響く保健活動を目指して」

ねらい

笛吹けど踊らず、あるいは旗を振っても誰もついて来ないといった、地域保健活動の手詰まり感を解消したい。がん検診の受診率の低迷然り、児童虐待件数の増加然り、自殺件数の増加然りである。知恵を絞り、手を尽くしてもこれら重要課題に解決の兆しが見えない。どうしたら住民の具体的な行動に結びつくか、住民の心に響く保健活動が展開できるか、普段従事する分野から少し距離を置いて議論したい。

学ぼう!! 「多様な住民を理解した保健活動の大切さ～AIDS 予防を例にして～」

市川 誠一 (名古屋市立大学大学院看護学研究科・感染症学)

厚生労働省エイズ動向委員会によれば、わが国では HIV 感染者/AIDS 患者の報告例は増加が続いている。2008 年の報告では HIV 感染者の 69.2%、AIDS 患者の 43.9%を男性同性間性的接触による感染が占めており、東京では 1996 年頃から、大阪では 1998 年頃から、愛知では 2001 年頃から増加が見られ、最近では他の地域でも増加の兆しにある。また、HIV 検査を受検した MSM(Men who have Sex with Men)における陽性率は、近畿地域では 2000 年-2002 年の調査で 3%前後、2004 年-2006 年の調査で 3.9%~4.7%、東海地域では 2001 年から実施している MSM 対象の HIV 検査会で 1.2%-4.7%である。東海地域では、HIV 感染者報告数は 2007 年から減少しているが、発症してから感染を知る AIDS 患者の発生は減少しておらず、早期検査の普及が十分でないことが考えられる。このような状況から、地域における同性愛者への予防啓発、HIV 陽性者への医療や支援を促進する体制づくりが求められている。

HIV 感染が男性同性間で流行している背景には、1) HIV 感染の情報提供が異性間 (男女間) に比べて少ない、2) 性的な悩みも異性間の視点でとらえられがちで同性指向についての相談がしにくいなどが考えられ、多様な住民に対応した支援が望まれている。

見つけよう!! 「アセットモデルによる健康増進計画」

尾島 俊之 (浜松医科大学健康社会医学講座)

健康増進計画の策定や見直しをする時に、まず、住民へのアンケート調査を行って、地域の課題や特性を明らかにすることが通常行われてきました。ニーズが明らかになった時に、以前の財政に余裕があった時代には、その分野に予算をしっかりとつけてサービスを充実させるということができました。一方で、最近の緊縮財政の中では、ニーズが明らかになったとしても、新規の事業を立ち上げることは困難で、結局、計画書を作っただけで、その後は特別なことは何もできないということになりがちです。

アセットモデルとは、このような地域の課題や悪い点を明らかにしようというニーズモ

